



事務連絡
2024年7月31日

職員各位

薬事委員会
委員長 水野伸一

薬事委員会 会議結果報告

2024年7月24日に開催された薬事委員会での審議結果を報告いたします。

1. 別記載の医薬品2品目2規格及び後発医薬品4品目5規格を採用医薬品に追加する。
2. 別記載の医薬品4品目4規格の採用医薬品を変更する。
3. 別記載の医薬品9品目12規格を院外処方限定医薬品に登録する。
4. 別記載の医薬品2品目3規格を削除する。

以上

2024年7月院外処方限定医薬品

- ・アドエア100ディスカス60吸入用
- ・アコニンサン錠
- ・イノラス配合経腸用液
- ・コレミナール錠4mg
- ・ジクトルテープ75mg
- ・ボナロン経口ゼリー35mg
- ・ミニリンメルトOD錠120 μ g
- ・メトジェクト皮下注7.5mg・10mg・12.5mg・15mgペン
- ・ロキソニンテープ100mg

2024年7月採用変更医薬品

アジスロマイシン 250mg 「NP」
 イソジンシュガーパスタ軟膏
 ベニジピン塩酸塩錠 4mg 「NS」
 メドレニック注シリンジ 2mL

アジスロマイシン 250mg 「DSEP」
 ネグミンシュガー軟膏
 ベニジピン塩酸塩錠 4mg 「NPI」
 メドレニック注 2mL

入荷困難
 入荷困難
 入荷困難
 販売中止

2024年7月削除薬品一覧表

薬効分類

6250i 抗ウイルス剤
 6250i 抗ウイルス剤
 3140i ビタミンC剤

薬品名（削除理由：特に記載なければ処方頻度減少による）

シナジス筋注液 50mg （ベイフォータス筋注 50mg あり）
 シナジス筋注液 100mg （ベイフォータス筋注 100mg あり）
 ビタミンC注 100mg



新規採用医薬品

<p>ピロイ点滴静注用100mg アステラス 4291</p> <p>成分:ゾルベツキシマブ(遺伝子組換え) 《禁忌》本剤成分に重篤な過敏症の既往歴。</p>	<p>効能用法 抗 CLDN18.2 モノクローナル抗体[CLDN18.2 陽性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌] 注水 5.0mL に溶解し、ゾルベツキシマブ 20mg/mL の濃度とする。必要量を抜き取り、希釈後の濃度が 2.0mg/mL となるように生食等で希釈。初回に 800mg/m²、2 回目以降は 600mg/m² を 3 週間隔又は 400mg/m² を 2 週間隔で、2 時間以上かけて点滴静注。</p> <p>警告 《本剤は緊急時に十分対応できる医療施設において十分な知識・経験を持つ医師の元、適切と判断される症例にのみ実施。開始前に有効性・危険性を十分説明し同意を得ること。</p> <p>副作用 《重大な副作用》過敏症[16.9%]、Infusion reaction[44.3%]、重度の悪心・嘔吐[15.9%]、凍結を避け 2～8℃</p>
<p>ユリス錠1mg 持田製薬 3949i</p> <p>成分:ドチヌラド 《禁忌》本剤に過敏症の既往歴。</p>	<p>効能用法 痛風、高尿酸血症 a)1日0.5mg(分1)より開始、維持:2mg(分1)。患者の状態に応じて適宜増減 最大投与量1日1回4mg</p>

新規採用後発医薬品

<p>フルオロウラシル注250mg5mL・1000mg20mL 「トワ」 東和薬品 4223</p> <p>成分:フルオロウラシル:5-FU 《禁忌》本剤成分に重篤な過敏症の既往歴。テガフル・ギメラシル・オテラシル K 配合剤投与中又は投与中止後 7 日以内(副作用増強)。</p>	<p>効能 a)[胃癌、肝癌、結腸・直腸癌、乳癌、肺癌、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌]、b)[食道癌、肺癌、頭頸部腫瘍]、c)[次の悪性腫瘍に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用(頭頸部癌、食道癌)]、[レボホリナート・フルオロウラシル持続静注併用療法(d)結腸・直腸癌、e)小腸癌、治癒切除不能な肺癌、治癒切除不能な進行・再発の胃癌]</p> <p>用法 a)1日1回5～15mg/kg5日間連日、以後5～7.5mg/kg隔日(静、点滴静) 1日1回5～15mg/kg隔日(静、点滴静) 1日1回5mg/kg、10～20日間連日(静、点滴静) 1日1回10～20mg/kg、週1回(静、点滴静)、必要に応じ1日5mg/kg(動) b)他の抗腫瘍剤が放射線と併用し1日5～10mg/kg、a)の方法に準じ又は間欠的に週1～2回 c)1日1000mg/m²、4～5日連日(持続静)、3週以上の間隔で、単独投与は併用時に準じる d)1)レボホリナート1回100mg/m²を2時間で(点滴静)、終了直後に本剤400mg/m²(静)、後600mg/m²を22時間で(持続静注)、2日連続、2週間毎反復 2)レボホリナート1回250mg/m²を2時間で(点滴静) 終了直後に本剤2600mg/m²を24時間で(持続静注)、1週間毎6回反復、2週休薬 3)レボホリナート1回200mg/m²を2時間で(点滴静)、終了直後に本剤400mg/m²(静)、後2400～3000mg/m²を46時間で(持続静注)、2週間毎反復 e)レボホリナート1回200mg/m²を2時間で(点滴静)、終了直後に本剤400mg/m²(静)、更に本剤2400mg/m²を46時間で(持続静注)、2週間毎反復</p> <p>警告 《本剤を含む癌化学療法は緊急時に十分対応できる医療施設において十分な知識・経験を持つ医師の元、適切と判断される症例にのみ実施。患者の選択には各併用薬剤の添付文書を参照し十分注意。開始前に有効性・危険性を十分説明し同意を得ること。MTX・5FU 交代療法は高度の危険性あり。頭頸部癌及び食道癌に対してがん化学療法と放射線照射を併用時には重篤な副作用や合併症の危険性あり、十分な知識・経験を持つ医師のもとで実施。テガフル・ギメラシル・オテラシル K 配合剤との併用により重篤な血液障害が発現のおそれ。》</p> <p>副作用 《重大な副作用》脱水症状(激しい下痢)、出血性腸炎・虚血性腸炎・壊死性腸炎等の重篤な腸炎、汎血球減少・白血球減少・好中球減少・貧血・血小板減少等の骨髄機能抑制、ショック、アナフィラキシー、白質脳症、うっ血性心不全、心筋梗塞、安静狭心症、心室性頻拍、急性腎障害、ネフローゼ症候群、間質性肺炎、肝機能障害、黄疸、劇症肝炎、肝不全、肝硬変、消化管潰瘍、重症口内炎、急性膀胱炎、意識障害を伴う高アンモニア血症、肝・胆道障害(胆嚢炎、胆管壊死、肝実質障害等)、手足症候群、嗅覚障害・嗅覚脱失、中毒性表皮壊死融解症(TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson 症候群)、溶血性貧血[不明]。</p> <p>貯法 2～8℃</p>
<p>ヘパリン類似物質ローション0.3%「NIT」 日東メディック 3339</p> <p>成分:ヘパリン類似物質 《禁忌》出血性血液疾患[血友病、血小板減少症、紫斑病等]、僅少な出血でも重大と予想される場合(出血助長)。</p>	<p>効能 皮脂欠乏症、進行性指掌角皮症、凍瘡、肥厚性癬癩・ケロイドの治療と予防、血行障害に基づく疼痛と炎症性疾患(注射後の硬結・疼痛)、血栓性静脈炎(痔核含む)、外傷(打撲、捻挫、挫傷)後の腫脹・血腫・腱鞘炎・筋肉痛・関節炎、筋性斜頸(乳児期)</p> <p>用法 1日1～数回(塗擦・ガーゼ貼付)</p> <p>貯法 室温</p>

<p>リネゾリド点滴静注液600mg「明治」 MeijiSeika ファルマ 6249i</p> <p>成分:リネゾリド:LZD 《禁忌》本剤成分に過敏症の既往歴。</p>	<p>効能 オキサゾリジノン系合成抗菌剤〔＜適応菌種＞本剤感性のメチリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)＜適応症＞敗血症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、肺炎＜適応菌種＞本剤感性のバンコマイシン耐性エンテロコッカス・ファシウム ＜適応症＞各種感染症〕</p> <p>用法 28日間を越えないことが望ましい 成人及び12歳以上の小児:1日1200mg、分2、12時間毎(点滴静)30～120分かけて 12歳未満の小児:1回10mg/kgを8時間毎(点滴静)30～120分かけて、1回量として600mgを超えない</p> <p>警告 〔耐性菌発現を防ぐ為、用法用量に関連する使用上の注意を熟読し適正使用に努める〕</p> <p>副作用 《重大な副作用》可逆的貧血(4.8%)、白血球減少(1.9%)、汎血球減少(0.8%)、血小板減少症(11.9%)、代謝性アシドーシス(0.2%)、間質性肺炎(0.1%)、腎不全(0.3%)、低Na血症(0.9%)、視神経症、ショック、アナフィラキシー、偽膜性大腸炎、肝機能障害、横紋筋融解症〔不明〕。</p> <p>貯法 室温・遮光</p>
<p>リュープロレリン酢酸塩注射用キット3.75mg「あすか」 劇 あすか 2499i</p> <p>成分:リュープロレリン酢酸塩 《禁忌》本剤成分又は合成 LH-RH、LH-RH 誘導体による過敏症の既往歴。妊婦又はその可能性(流産、動物で胎児死亡増加)、授乳婦(動物で乳汁移行)、診断不可能な異常性器出血(悪性疾患の可能性)。</p>	<p>効能 LH-RH 誘導体〔a)子宮内膜症、b)過多月経・下腹痛・腰痛及び貧血等を伴う子宮筋腫における筋腫核の縮小及び症状の改善、c)前立腺癌、d)閉経前乳癌、e)中枢性思春期早発症〕</p> <p>用法 a)4週に1回3.75mg(皮下)、50kg 未満では1回1.88mg(皮下) 初回投与は月経周期1～5日目 b)4週に1回1.88mg(皮下) 体重の重い患者・子宮腫大が高度の患者1回3.75mg、初回投与は月経周期1～5日目 c)d)4週に1回3.75mg(皮下) e)4週に1回30μg/kg(皮下)、症状に応じ180μg/kgまで増量 投与量の調節が不可能なため、1回あたり全量投与が必要な患者にのみ使用する</p> <p>副作用 《重大な副作用》間質性肺炎、アナフィラキシー、うつ状態(0.1%未満)、肝機能障害、黄疸、糖尿病発症又は増悪、下垂体卒中、血栓塞栓症(心筋梗塞、脳梗塞、静脈血栓症、肺塞栓症等)〔不明〕、更年期障害様うつ状態(0.1～5%未満)、骨疼痛一過性増悪、尿路閉塞、脊髄圧迫(5%以上)、心不全(0.1～5%未満)。</p> <p>貯法 室温</p>

整理医薬品在庫表(2024/7/17現在)

内服		現在在庫	単位	一色数	薬価単位	薬価	総額薬価	薬効分類	備考
1	ドレニゾンテープ	31	枚	1	枚	62.60	1,940.6	副腎皮質ホルモン製剤	使用期限2024/12
							1,940.6	①内服合計	